

自動車による通勤交通について

東京大学 都市工学科 正員 井上 孝
同上 学生員 山川 仁

1. まえがき

わが国では、大都市へ通勤交通はその大部分を鉄道に依存している。東京、大阪では朝のラッシュ時には、輸送量の約8割が鉄道によるものである。しかし、自動車の普及に伴い、バス以外に自家用車で、個人単位に通勤を行う傾向が生じてきた。量的には、まだわずかであって、例として昭和40年に都心3区へ自家用車で通勤する人員は約4.8万人で、総数151万人の3.2%に過ぎない。しかし、この傾向が今後増大すれば、街路容量の不足、勤務先における駐車スペースの不足が、大まな問題になってくる。こゝでは、自動車による通勤交通の将来を推察する手がかりにするために、東京の周辺都市で実施した調査結果の一部を報告する。

2. 調査対象地域

以下に示すのは、千葉県松戸市における調査結果である。当市は、都心より20km、鉄道で50分の位置にある人口16万の中都市である。就業者8.3万人のうち47%が東京近郊へ通勤し、又、OD調査によれば、自家用車により、2,500人が通勤を行い、こゝうち1,100人が東京近郊へ、1,020人が松戸市内に向っている。住宅化の著しいことを考慮して、4つの地域に区分した。

3. 調査結果

各地域とも500戸以上、計2,556戸を調査することができた。以下、主として、自動車を利用する要因に重点を置いて結果を示すことにする。

(a) 自動車保有世帯における通勤のための自動車利用

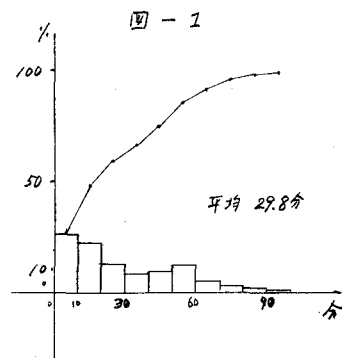
表-1

地 域	通勤利用 毎日 利用する	利用する理由					利用しない	利用しない理由						時々利用する
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	6	
		通勤時間が 短い	鉄道である	費用が安い	雇用他、目的 にも使った	その他		道路混雑のため	費用が高い	勤務先に駐車場がない	他、手配り、原 たり危険が強い	自家用車のため	その他	
商業地域	% 54.2	内訳 25.1	8.6	6.5	42.4	17.4	% 33.1	内訳 8.7	3.6	9.2	14.1	48.3	16.1	% 12.7
住宅団地	43.8	32.3	4.3	1.4	54.4	7.6	51.4	11.2	1.5	12.9	9.5	52.6	9.3	4.8
住宅地域(A)	40.5	32.1	13.8	8.5	33.8	11.8	55.6	2.4	1.2	3.5	3.8	79.4	9.7	3.9
同上(B)	48.3	54.3	3.4	1.7	22.1	18.4	45.1	3.7	1.6	1.7	5.4	76.3	13.3	6.6
平均	47.2	34.8	7.8	5.6	39.0	14.8	45.6	6.1	1.9	6.9	7.7	66.2	12.2	7.2

(A) — 自家用車所有世帯のうち、全体として、47.2%が通勤に毎日利用し、理由は、④「昼間他の目的のために使う」が最大で、次の①「通勤時間が少ない」と併せて、72%を占める。住宅地域(B)で理由①が大きいのは、この地域が交通不便であるため、又、住宅地域で理由④が大きいのは、利用者の職業に因連すると思われる。他方、利用しな理由では⑤「自家営業であるため」が最大となるが、自家営業の世帯を深くと保有世帯の67%、ほぼ2/3が通勤に毎日、自乗車を利用している。又、「時々使う」のは月に10回以下が殆どで、うち5回以下が4割を占めている。

(B). 通勤所要時間

右の図-1に示す如く、10分以下が25%を占め30分以下をとると60%になる。平均値は29.8分になる。一般に鉄道、バスによる通勤では、分布は正規型をなす場合が多いのに比べ、ここでは、市街市内への比重が高いために、短時間の割合が大きい。40分以上は、東京西部へ向うものがほとんどである。



(C). 勤務先の車による通勤

勤務先の車を用いた通勤の割合は、自乗車と保有している世帯の通勤者の5.7%に当る。車種別に見ると、乗用車が48%を占めライトバン、小型貨物がこれに次ぎ、軽四輪は6%にすぎない。又、毎日利用するのが70%で残りは、月に10回及び月に5回がほぼ同数になっている。行先は、松戸市内が32%、東京西部が54%を占めている。なお、自家用車による通勤者と比べると、その26%を占めている。

(D). 将来自家用車入手した場合の通勤利用

右の表-2に示す如く、自家用車と通勤に利用

表-2. 将来の通勤利用

しようとする世帯は14.8%に過ぎない。交通不便な住宅地域(A),(B)に於て高い。

又、「費用が高い」或いは「係り」という要因の比重は小さく、「安全性」が「道路混雑」と上

地域	通勤利用	利用する %	利用する理由					利用しない	利用しない理由						不明
			1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	6	
			通勤時間短縮	快適である	費用が安い	昼間他目的のために使う	その他		道路混雑	費用が高い	勤務先が遠い	乗用車に乗り換えたい	危険である	自家営業	
商業地域		15.9	31.8	17.0	6.7	25.8	18.7	57.2	21.9	2.1	9.0	47.8	9.1	15.3	26.9
住宅地域		13.3	52.8	8.9	8.7	26.7	2.9	66.3	30.2	5.9	12.2	42.8	1.9	7.0	20.4
住宅地域(B)		21.5	43.5	12.8	5.1	23.0	15.6	51.5	22.8	3.7	9.8	52.4	5.3	6.0	27.0
同上(B)		22.3	41.6	11.1	2.8	25.2	19.3	52.4	23.3	6.8	8.1	44.4	2.1	10.3	25.3
平均		14.8	41.7	12.8	5.9	25.0	14.6	61.3	29.6	4.3	10.1	46.9	4.5	10.6	23.9

回って、利用しない理由の第一位を占めている。

4. 今後の問題点

現在保有世帯の67%が通勤に利用しているが、将来利用せんとする非保有世帯は15%にすぎない。今後、所有者の職業、勤務先、車種、道路改良等を総合した判断が必要になる。差別、職業と通勤利用との相関性の分析が必要であると思われる。